資　料

保育者養成校における保育内容「環境」の指導法に関する考察

― シラバス分析を通して ―

香﨑智郁代

A Study on The Teaching Method of “Environment”
of Childcare Contents in Nursery School
― Through syllabus Analysis ―

Chikayo KOUZAKI

［要約］本研究では，保育内容「環境」の指導法の授業の在り方を検討するために，Web 上で公開されているシラバスに記載されている項目を対象とし，テキストマイニングによりシラバス分析を行った。対象とした項目は「授業の概要」「到達目標」「授業の計画」であった。その結果，「授業の内容」として，幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「環境」の内容を理解すること，また制作や栽培，遊びを実際に具体的に実践すること，そして，指導計画を構想し，模擬保育を実践・改善していく，といった内容が組み込まれていることが明らかになった。またその手法としてアクティブ・ラーニングを取り入れていることが示唆された。

キーワード：環境，指導法，KHcorder 教育課程

1. はじめに

近年の都市化，核家族化を背景とした家庭や地域の教育力の低下に伴い，幼児教育，学校教育の重要性が改めて指摘されている。そのなかで，平成27年の中央教育審議会答申「これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について」では，「教員が教員としての使命感や幼児，児童，生徒の発達に対する理解など，基本的な知識や能力を備えていることが必要となることはもとより，大きく変動する社会の中での教育の在り方に関する理解や，多様化した保護者の関心や要求に対応できる豊かな人間性とたくましさ，幼稚園，小・中学校をはじめとした各学校等の特色や関係性に関する幅広い知見，地域との連携・協働を円滑に行うための資質を備えた教員を養成する」ことが必要であることが示され，教育を担う教員の資質向上の重要性が指摘されている。特に幼児教育にあっては，「平成28年度幼稚園教諭の養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究」によると，幼稚園教諭に求められる資質として，（1）幼稚園教諭として不易とされる資質能力，（2）新たな課題に対応する力，（3）組織的・協働的に諸問題を解決する力，の3点が示されている。

さらに，平成28年の中央教育審議会答申「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」では，「意欲をもった優秀な人材が，教師という職業に魅力を感じ，教職に就くようになるためには，教員の勤務の実態を踏まえた適切な処遇とメリハリのある給与体系の実現や教員評価の処遇への反映などの教育条件の整備とともに，教員の養成や研修の改善が求められる」と同時に，教師の資質を向上させていくためには教材研究や授業研究，教師同士の相互評価といった取組の必要性が述べられており，様々な視点から教師の質の向上を図る必要性があることが指摘されている。

教師の質の向上については，養成校での教育がその基盤となることが言うまでもない。平成28年に一部改正された教育職免許法，翌平成29年改正の教育職員免許法の施行規則によって，幼稚園教諭養成課程においては，「領域及び保育内容の指導法に関する科目」が新設され，そのなかに「領

域に関する専門的事項」と「保育内容の指導法」が位置づけられた。そして，「領域及び保育内容の指導法に関する科目」においては，アクティブ・ラーニングの視点を取り入れること，また大学や担当者による創意工夫を加えることとなっており，さらに教職課程コアカリキュラムでは「各教科等の授業を通じた学習ではなく遊びを通しての総合的な指導を中心とすること等，学校種や職種の特性を踏まえて創意工夫を行うことが必要である」と述べられ，幼児教育の特性や科目担当者，どのような幼稚園教諭を養成していくかといった目標を踏まえて科目内容を検討していくことが求められている。

さらに，保育内容の指導法（情報機器及び教材の活用を含む。）では，全体目標として，「幼稚園教育おいて育みたい資質・能力を理解し，幼稚園教育要領に示された当該領域のねらい及び内容について背景となる専門領域と関連させて理解を深めるとともに，幼児の発達に即して，主体的・対話的で深い学びが実現する過程を踏まえて具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける」が挙げられている。また，（1）各領域のねらい及び内容と（2）保育内容の指導方法と保育の構想に分けられ，それぞれ一般目標と到達目標が示されている。そのなかで，（2）保育内容の指導方法と保育の構想では，一般目標として，「幼児の発達や学びの過程を理解し，具体的な指導場面を想定して保育を構想する方法を身に付ける」ことが示され，到達目標として，「1）幼児の認識・思考，動き等を視野に入れた保育の構想の重要性を理解している。2）各領域の特性や幼児の体験との関連を考慮した情報機器及び教材の活用法を理解し，保育の構想に活用することができる。3）指導案の構成を理解し，具体的な保育を想定した指導案を作成することができる。4）模擬保育とその振り返りを通して，保育を改善する視点を身に付けている。5）各領域の特性に応じた保育実践の動向を知り，保育構想の向上に取り組むことができる。」という5つが挙げられている。各科目のシラバス作成や授業実施にあたっては，当該科目の「全体目標」「一般目標」「到達目標」の内容を修得できるような授業を設計・実施していくことが求められている。

そこで，本研究では保育内容「環境」を取り上げ，保育者養成校における講義のシラバス分析を通して，その教授方法，指導方法の在り方を検討したい。これまでに保育内容「環境」の指導法に関する研究は散見される（例えば，小山，2021）。しかしその多くは，授業で取り扱った事例検討に留まっている。また授業のシラバス分析をした先行研究もいくつか見られる。例えば，金城（2017）は，保育内容「人間関係」におけるシラバス構成を目的に現行シラバスの分析を実施している。また，田中ら（2018）は保育者養成校における保育内容「健康」のシラバスを分析し，学習の教育的効果と課題の整理を試みている。さらに青山（2018）は，保育内容「環境」及び保育内容「人間関係」の指導法の内容について「環境」「人間関係」の2つの領域にまたがった指導法の授業計画案を提示している。これらから他の領域におけるシラバス分析を通した授業の在り方についてはわかるものの，「環境」の授業の在り方について検討するものではなく，本研究の意義はあると考える。

2. 研究方法

2-1. 研究目的

本研究は，保育内容「環境」の指導法におけるシラバス分析を通して，その内容と課題を検討することを目的とする。

2-2. 分析対象

本研究では，九州圏内における保育士・幼稚園教諭養成課程をもつ大学・短期大学58校の2021年度版シラバスを調査対象とした。そのなかで，各大学・短期大学のホームページからシラバスの閲覧が可能だった43校を分析対象とした。またシラバスに記載されている「授業の概要」「到達目標」「授業計画（第1回～第15回）」を抽出した。科目名については，「保育内容（環境）」，「環境指導法」「「子どもと環境指導法」「子どもと環境」等と各養成校によって異なりが見られたが，領域「環境」の指導法に相当すると考えられた科目を選定した。

2-3. 分析方法

本研究では，保育者養成校におけるシラバスを収集し，記載されている内容（テキストデータ）を収集し，その特徴と傾向を明らかにすることを

目的とした。そのため，テキストデータに含まれる語を抽出し，計量的に分析することができるツールとして開発されたKH Corderを使用した。

2-4. 倫理的配慮

本研究で使用した分析対象は，各養成校におけるホームページにおいて公表されているものであるため，倫理的配慮は特に行っていない。

3. 結果と考察

1）抽出語

KH Corderによる前処理実施の結果，分析対象となったデータは，「授業の概要」では総抽出語数が4,716語，異なり語数は593語であった。表１は頻出語150語である。また，「到達目標」では総抽出語が3,908語，異なり語数は452語であった。そして，「授業計画」では，総抽出語が14,237語，異なり語数は992語であった。それぞれ表１，２，３に示す。「授業の概要」においては，上位から順に，「環境」「保育」「内容」「幼児」「領域」「指導」「理解」といった保育内容「環境」の授業に関する語が抽出されている。なかでも，「自然」「実践」といった語も多く抽出されており，環境の内容に関わる語が見られる。また「到達目標」においても同様に，「環境」「保育」「理解」「教育」「領

表１.「授業の概要」の頻出語150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
環境	156	検討	8	効果	4
保育	110	考察	8	考える	4
内容	54	事象	8	視点	4
幼児	46	持つ	8	自身	4
領域	46	取り入れる	8	実習	4
指導	41	展開	8	周囲	4
理解	40	グループ	7	人間	4
教育	39	過程	7	促す	4
自然	29	学び	7	態度	4
具体	27	好奇	7	知る	4
学ぶ	26	講義	7	直接的	4
子ども	25	作成	7	認定	4
幼稚園	24	事例	7	物的	4
実践	23	示す	7	保	4
方法	22	必要	7	目的	4
行う	21	付ける	7	目標	4
要領	21	意義	6	問題	4
発達	19	育てる	6	幼	4
体験	18	解説	6	連携	4
身	16	機器	6	アクティブ	3
活動	15	現代	6	ゲーム	3
深める	15	資源	6	ネイチャー	3
身近	15	重要	6	ビデオ	3
授業	14	情報	6	位置づけ	3
生活	14	専門	6	意図	3
力	14	特性	6	意欲	3
関わる	13	学習	5	育ち	3
活用	12	感性	5	影響	3
及ぶ	12	関係	5	課題	3
構成	12	関連	5	改善	3
社会	12	基づく	5	確認	3
教材	11	姿	5	学修	3
場面	11	主体	5	学力	3
知識	11	心	5	関心	3
踏まえる	11	即す	5	基盤	3
乳幼児	11	探求	5	興味	3
認識	11	通す	5	考え方	3
計画	10	評価	5	栽培	3
構想	10	役割	5	在り方	3
指針	10	様々	5	使う	3
想定	10	養う	5	資質	3
関わり	9	立案	5	実現	3
基本	9	育む	4	取扱い	3
実際	9	園	4	取得	3
取り巻く	9	演習	4	習得	3
模擬	9	科目	4	振り返る	3
遊び	9	学生	4	深い	3
意味	8	感覚	4	生きる	3
科学	8	基	4	生物	3
基礎	8	技能	4	積極	3

域」「内容」「幼児」「幼稚園」といった語が抽出された。また,その他「説明」「指導」「示す」「構想」といった語も確認された。そして,「授業計画」においても「環境」「保育」「保育」といった語が上位に抽出された。

2）共起ネットワーク

図1，2，3に共起ネットワークを示す。「授業の概要」,「到達目標」における出現数による単語

表2.「到達目標」の頻出語150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
環境	127	小学校	6	実現	3
保育	101	特性	6	取り入れる	3
理解	82	認識	6	周囲	3
教育	58	評価	6	振り返る	3
領域	58	模擬	6	親しむ	3
内容	56	育む	5	対話	3
幼児	42	関わり	5	地域	3
幼稚園	39	基礎	5	通す	3
指導	36	技能	5	提示	3
子ども	30	経験	5	日常	3
要領	29	構成	5	把握	3
説明	27	構造	5	付ける	3
示す	20	事例	5	変化	3
発達	19	情報	5	望ましい	3
及ぶ	18	専門	5	目標	3
踏まえる	18	全体	5	役割	3
基本	17	認定	5	与える	3
活動	15	力	5	養う	3
具体	14	あり方	4	理論	3
構想	14	育てる	4	グループ	2
自然	14	関係	4	以降	2
活用	12	関心	4	位置づけ	2
指針	12	機器	4	意味	2
身	12	考える	4	園	2
方法	12	考え方	4	課題	2
実践	11	行なう	4	解決	2
社会	11	視点	4	改善	2
乳幼児	10	事象	4	概要	2
留意	10	積極	4	獲得	2
過程	9	適す	4	感性	2
教材	9	背景	4	基づく	2
取り巻く	9	保	4	記す	2
出来る	9	遊び	4	教科	2
深める	9	幼	4	結びつける	2
生活	9	立案	4	現場	2
体験	9	連携	4	現状	2
知識	9	影響	3	行事	2
作成	8	援助	3	栽培	2
様々	8	科学	3	参画	2
学び	7	学ぶ	3	支援	2
関連	7	学習	3	資質	2
場面	7	研究	3	飼育	2
身近	7	現代	3	実際	2
想定	7	考察	3	就学	2
意義	6	考慮	3	修得	2
育ち	6	行う	3	習得	2
関わる	6	姿	3	重要	2
興味	6	思考	3	心情	2
計画	6	持つ	3	心身	2
主体	6	自ら	3	深い	2

の取捨選択では，最小出現数を10に，「授業計画」では，最小出現数を20に設定し，共起関係の絞り込みでは描画数をいずれにおいても60に設定した。また，抽出語の関係性を解釈しやすいように最小スパニングツリー描画に設定した。

「授業の概要」の共起ネットワーク（図１）では，５つのグループに分けられた。それぞれのグループの抽出語が用いられている文脈を確認し，グ

表３．「授業計画」の頻出語150語

抽出語	出現回数	抽出語	出現回数	抽出語	出現回数
環境	486	関心	26	想定	13
保育	410	基本	26	知る	13
領域	156	授業	26	検討	12
子ども	137	図形	26	現場	12
自然	132	関わり	25	施設	12
内容	124	行事	25	持つ	12
指導	119	役割	24	質	12
遊び	109	留意	23	数	12
幼児	102	課題	22	展開	12
教育	72	標識	22	土	12
活動	70	科学	21	意識	11
実践	68	及ぶ	21	夏	11
身近	68	指針	21	含む	11
考える	66	触れる	21	構造	11
理解	65	地域	21	昆虫	11
実際	62	発表	21	視点	11
模擬	62	文化	21	人	11
生活	61	用いる	21	草花	11
作成	58	学び	20	探究	11
発達	58	物的	20	ICT	10
体験	56	学習	19	安全	10
計画	54	関係	19	園内	10
活用	53	研究	19	深める	10
情報	52	取り巻く	19	生かす	10
学ぶ	50	素材	19	専門	10
植物	49	観察	18	踏まえる	10
具体	43	興味	18	乳幼児	10
幼稚園	42	説明	18	認定	10
園	41	動物	18	意味	9
文字	41	立案	18	過程	9
栽培	40	育つ	17	改善	9
構成	38	関連	17	実際	9
評価	38	姿	17	終わる	9
方法	37	認識	17	小動物	9
事例	35	野菜	17	心	9
意義	34	通す	16	生命	9
教材	34	伝統	16	カリキュラ	8
社会	31	育てる	15	観点	8
要領	31	考察	15	経験	8
グループ	30	飼育	15	劇	8
親しむ	30	整理	15	構想	8
数量	30	オリエンテ	14	砂	8
関わる	29	好奇	14	散歩	8
使う	29	知識	14	示す	8
小学校	29	変化	14	取りまく	8
振り返る	28	プロジェク	13	春	8
機器	27	育ち	13	探索	8
季節	27	育む	13	調べ	8
行う	27	現代	13	動植物	8
遊ぶ	27	場面	13	特性	8

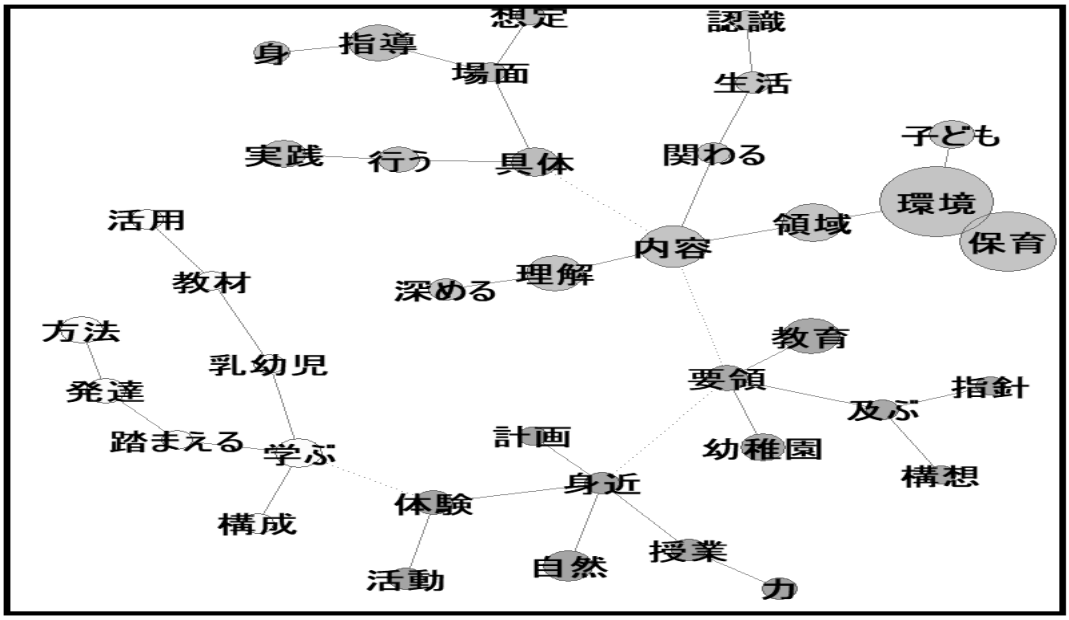

図１.「授業の概要」の共起ネットワーク

ループを以下のように解釈した。
・グループ１（環境，保育，領域，内容，理解，深めるといった抽出語が見られたグループ）：保育内容「環境」の理解を深める。
・グループ２（具体，場面，想定，指導，実践といった抽出語が見られたグループ）：具体的な場面を想定し，実践し指導する。
・グループ３（乳幼児，発達，方法，踏まえる，教材，構想といった抽出語が見られたグループ）：乳幼児の発達を踏まえて，保育方法を構想する。
・グループ４（幼稚園，保育，要領，指針といった抽出語が見られたグループ）：幼稚園教育要領，保育指針をもとに保育を構想する。
・グループ５（計画，活動，自然，授業，体験，活動といった抽出語が見られたグループ）：自然を体験する授業を計画する。

また，「到達目標」の共起ネットワーク（図２）では，４語以上抽出語が結びついている箇所に注目すると，４つのグループが見いだされた。それぞれのグループの抽出語が用いられている文脈を確認し，グループを以下のように解釈した。
・グループ１（指針，幼稚園，教育，基本，説明といった抽出語が見られたグループ）：幼稚園教育要領，保育所保育指針の基本を説明する。
・グループ２（環境，内容，領域，理解といった抽出語が見られたグループ）：領域「環境」の内容を理解する。
・グループ３（幼児，自然，活動，及ぶといった抽出語が見られたグループ）：幼児の自然への意識を高める。
・グループ４（発達，具体，指導，構想といった抽出語が見られたグループ）：発達に即した具体的な指導を構想する。

さらに,「授業計画」の共起ネットワーク（図３）においても，４語以上抽出語が結びついている箇所に注目すると，５つのグループが見いだされた。それぞれのグループの抽出語が用いられている文脈を確認し，グループを以下のように解釈した。
・グループ１（保育，環境，模擬，保育，振り返る，実践，計画といった抽出語が見られたグループ）：模擬保育を計画し，実践する。
・グループ２（幼稚園，教育，要領，指針，理解といった抽出語が見られたグループ）：幼稚園教育要領，保育所保育指針を理解する。
・グループ３（遊び，具体，体験，活動，事例，実際，触れるといった抽出語が見られたグルー

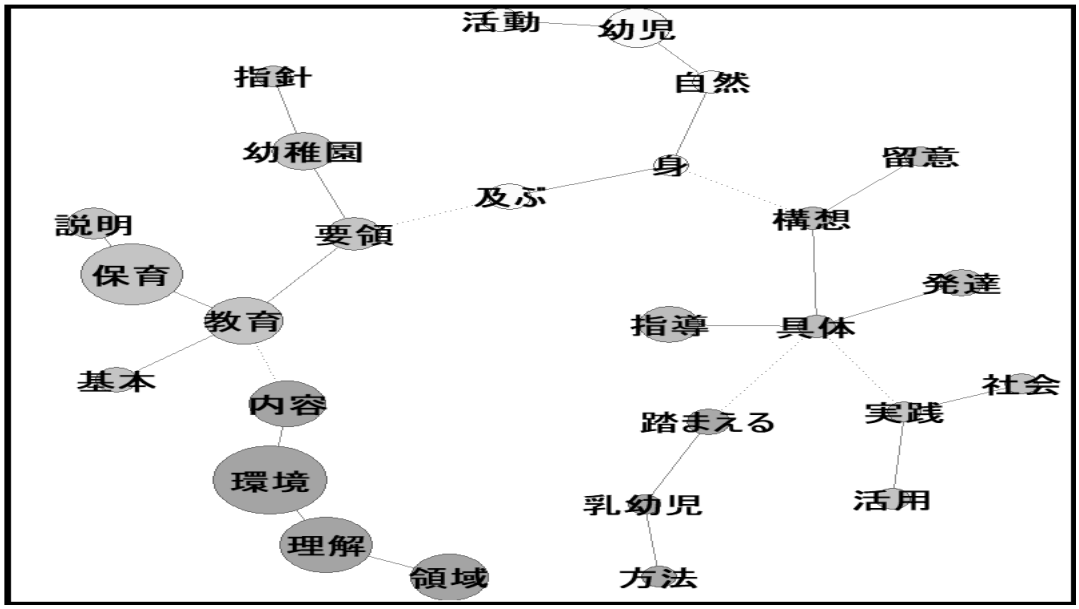

図２.「到達目標」の共起ネットワーク

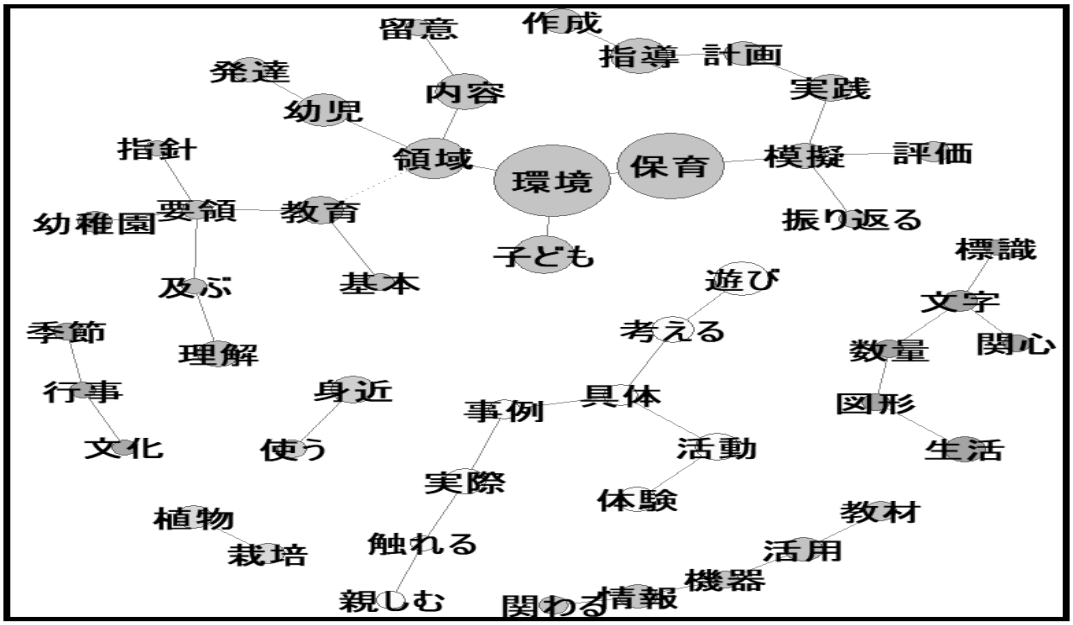

図３.「授業計画」の共起ネットワーク

プ）：具体的な体験活動を通して具体的な遊びを体験する。

・グループ４（標識，文字，数量，図形，生活といった抽出語が見られたグループ）：生活で見られる標識や文字，数量，図形を理解する。

・グループ５（活用，情報，機器，教材といった抽出語が見られたグループ）:情報機器を活用する。

このことから，保育内容「環境」の指導法においては，幼稚園教育要領，保育所保育指針の基本を理解し，幼児の発達を考慮しながら具体的な指導計画を構想することができるようになることが到達目標となっていたことが窺える。また，到達目標を達成するための方法として，ICT 等の情報機器を活用し，具体的な事例や実際の遊びに触れたり，指導計画を作成しそれに基づいた模擬保育の実践を行い，その実践を振り返るといったアクティブ・ラーニングの手法が取り入れられていると考えられる。保育内容「環境」の指導法における授業モデルでは，１）映像資料等を活用し，幼児の発達の特性や指導場面等を具体的に理解することができるようにすること，２）制作，栽培，伝統的な遊び等，具体的な遊びを直接体験できるようにすること，３）幼稚園や子ども等を訪問し，行事の実際を理解できるようにすること，４）幼児の発達を理解するための視点について具体的な事例を基に考えること，５）アプローチカリキュラム，スタートカリキュラムの具体例を取り上げること，６）ICT や他の具体的資料を活用すること，７）幼児教育や発達心理学等の専門性に基づくこと，が留意点として挙げられている。本研究の結果では，概ね以上の点が含まれた授業計画が立てられていたと考える。

4. まとめと課題

本研究では，シラバス分析を通して保育内容「環境」の指導法のカリキュラムの在り方を検討することを目的とした。その結果，多くの保育者養成校において，幼稚園教育要領や保育所保育指針における領域「環境」の内容を理解し，制作や栽培，遊びを実際に具体的に実践することや指導計画を構想し，模擬保育を実践・改善していく，といった内容が組み込まれていることがわかった。これらの内容を実際に学生に伝えていくためには，担当する養成校教員の力量が大きく関わってくる。前出の報告書では，担当する教員は幼稚園教育における領域に関連する学問分野を専門とする者が適当であることが示されており，その専門性とは何かを検討していく必要があろう。これは今後の課題としたい。

引用・参考文献

青山佳代（2018）：保育者養成における保育内容指導法に関する一考察―「環境」と「人間関係」に注目して―．柳城こども学研究，１，31-49.

中央教育審議会（2015）：これからの学校教育を担う教員の資質能力の向上について～学び合い，高め合う教員育成コミュニティの構築に向けて～（答申）．（最終閲覧日：2021年12月10日，URL：https://www.mext.go.jp/）

中央教育審議会（2016）：幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について（答申）．（最終閲覧日：2021年12月8日，URL：https://www.mext.go.jp/）

樋口耕一（2014）：社会調査のための計量テキスト分析，ナカニシヤ出版.

一般社団法人　保育教諭養成課程研究会（2017）：平成28年度幼稚園教諭も養成課程のモデルカリキュラムの開発に向けた調査研究―幼稚園教諭の資質能力の視点から養成課程の質保証を考える―.

金城悟（2017）：保育者養成課程における「保育内容（人間関係）」「幼児と人間関係」のシラバス構成に向けた基礎的研究（１）授業計画の分析．東京家政大学教員養成教育推進室年報，65-71.

厚生労働省（2021）：指定保育士養成施施設一覧　都道府県別，指定都市，中核市別（2021年４月１日現在）．（最終閲覧日：2021年12月10日，URL：https://www.mhlw.go.jp/content/000526901.pdf）

小山容子（2021）：保育内容「環境」の指導法に関する一考察～幼児が環境と関わる姿の事例検討を通して～．創価大学教育学論集，72，101-110.

教職課程コアカリキュラムの在り方に関する検討会（2017）：教職課程コアカリキュラム．（最終閲覧日：2021年12月８日，URL：https://www.mext.go.jp/）

三川明美（2020）：保育内容「環境」の指導法に関する課題について．広島文化学園短期大学紀要，53，53-61.

文部科学省：幼稚園教員の免許を取得することのできる大学．（最終閲覧日：2021年12月11日，URL：https://www.mext.go.jp/）

文部科学省初等中等教育局教職員課（2017）：【資料１－１】教育職員免許法・同施行規則の改正及び教職課程コアカリキュラムについて．（最終閲覧日：2021年12月10日，URL：

https://www.mext.go.jp/）
田中卓也・伊藤恵里子・岩治まとか（2018）：保育者養成校における講義のシラバス分析とその課題に関する考察―保育内容（健康）」を中心に．共栄大学教育学部研究紀要，（2），1-8.

（受稿：2022年１月24日，受理：2022年２月20日）

A Study on The Teaching Method of “Environment” of Childcare Contents in Nursery School ― Through syllabus Analysis ―

Chikayo KOUZAKI

In this study, in order to examine the ideal way of teaching the childcare content “environment”, the syllabus analysis was performed by text mining for the items described in the syllabus published on the Web. The target items were “class outline”, “achievement goal”, and “class plan”. As a result, as the “contents of the lesson”, understand the contents of the area “environment” in the kindergarten education guidelines and nursery school childcare guidelines, and actually practice production, cultivation, and play, and the guidance plan. It became clear that the contents such as the concept, practice and improvement of simulated childcare are incorporated. It was also suggested that active learning was adopted as the method.

Key words: environment teaching method KHcorder curriculum